

岐阜県教育委員会 様

岐阜県立飛騨吉城特別支援学校長

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 飛騨吉城特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年2月28日(火) 10:00～12:00
- 3 開催場所 飛騨吉城特別支援学校 多目的室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した。
- 4 参加者

会長	都竹 薫子	飛騨吉城特別支援学校PTA会長
副会長	柚原 誠	神東会理事長
委員	古里 淳朗	殿町20区区長
	蓑輪 一幸	同窓会保護者役員
	中村 泰己	青龍会会長
	中切 智子	飛騨市地域生活安心センター長(欠席)
	奈木 桂子	福祉サービス事業所ピース理事長
	下出 尚弘	古川小学校校長
オブザーバー	沖畑 康子	飛騨市教育委員会教育長(欠席)
学校側	駒田 美奈	校長
	長瀬 朋彦	教頭
	坂垣内 徹	事務長
	北川 貴美	小・中学部部主事
	塚本 和幸	高等部部主事
	中田 健太	教務主任

5 会議の概要(協議事項)

(1) 校長挨拶

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきた。高等部3年生は3年間大変だったが、今週末の卒業式でしっかり送り出したい。来年度に向けて日課や部活動の変更を考えているため、意見を得たい。10周年記念事業の進捗状況についても説明したい。

(2) 今年度の教育実践の反省と来年度に向けて

意見1: 放課後の課外活動としての部活動はなくなるのか。

小学校ではクラブ活動の授業があった。小学部在籍からこのような活動があるのは良い。縦割りの交流も期待できる。

通学距離をハンデにしたくないため、良いことである。

⇒来年度も課外活動ではあるが、生徒全員が参加できるよう火曜日と木曜日の下校スクールバス発車前に行く。

⇒自宅が遠方で、活動を望んでもできない生徒がいるため、下校手段の確保と将来の時間の過ごし方を考える機会を設定したいと考えて変更した。来年度から実施し、いずれは地域の方にも講師などで入ってもらいたい。

意見 2 : 「飛騨市地域生活安心支援センターふらっと」とはどのように連携をしているのか。

⇒毎月の定例会で情報交換を行い、児童生徒の状況、課題等を把握してもらっている。校内担当管理職の定例会参加を位置付ける。

⇒飛騨市では、学校だけでは対応できないことを話し合ってもらえ、地域で児童生徒を支えていただいている。

意見 3 : 個別の支援計画を立てるときに本人の意見を聞いたり、部活動を余暇につなげたりすることは、卒業後を意識した良い取組である。障がいの程度に関係なく、体力がない方は能力が高くても苦しんでいる。学校で生活リズムを身に付けさせることが大切である。24時間好きな時間に活動できてしまう社会になっているので、生活リズムなどの基礎基本を学齢期に身に付けることができるかと将来につながる。

(3) 高等部作業学習の製品価格について
適正な価格であると承認された。

(4) 意見交換

意見 1 : 作業室に「働くために」という目標が掲示してあったが、働くことにどういう意味をもたせているのか。自分の娘は就労継続B型事業所で工賃をもらっているが、工賃を積み立てて旅行に行ったり、買物をしたりすることを楽しみにしている。喜びがあるとやる気をもつことができる。報酬となるものがあるとよい。娘は卒業式後に教室で「お金をためて修学旅行で行った沖縄に旅行します」と話し、3年後に実現させた。学校できっかけを作ってもらえて感謝している。
⇒対面の販売会で自分が作った製品が売れること、お客様に褒めていただけることが喜びになっている。キャリアパスポートを来年度から運用するため、社会に出た時のやりがいにつながる取組をする。

⇒就労の喜びやモチベーションをもつことは大切である。

意見 2 : 授業の表情がよく、目的をもって楽しく取り組んでいた。小学校との交流を推進していきたい。まずは職員同士で連携して積み上げていけるとよい。今年度の居住地校交流では、別れ際に手を振りながら和気あいあいとした雰囲気だった。日常的に交流して理解を深めることができるとよい。4年生児童を対象に特別支援学校卒業生とその保護者から講話を聴く機会があった。直接かかわることは大切である。

⇒来年度どのように交流を行っていくかを今年度中に小学校と話し合う。

意見 3 : 中学部の作業製品は販売していないと聞いた。巡回の写真展を見た方から、「他の地域では考えられない。これができるのは飛騨という良い地域だからだ。」と言われたことがある。販売していないこととのギャップを感じた。中学部の作業製品を販売してもよいのではないか。

⇒可能であるか検討する。

意見4：今年度卒業生3名が4月からサービス利用をしてもらえるので楽しみにしている。授業見学の際、こちらを見て意識していてうれしかった。落ち着いて授業を受けていた。

当事業所では、働く意義を意識できる方と苦手な方がサービス利用されているため、作業では役割を細分化し、「あなたがいないとこれができない」というチームで頑張る雰囲気を作っている。チームで頑張る取組ができると、姿勢が変わってくるのではないかと。

⇒そのとおりである。参考にさせていただく。

意見5：前回の授業参観ではIT化に驚いたが、今回は活動的な姿やタブレットを活用している姿が見られ、うれしかった。

卒業生に会うと、元気そうな姿を見せてくれる。卒業後も地域社会の一員として仲良くしていけるように支えていきたい。

⇒よろしく願いしたい。

意見6：授業参観すると力が湧いてきてうれしい。これから地域とつながってできることを私たちも考えたい。地区の会合でも話を進めていきたい。

所属会社で就労継続支援A型事業所に仕事を依頼している。「仕事があるとありがたい。」と言われた。人によってできる仕事は違っていて、そこを伸ばしていく様子を見ることができた。

⇒よろしく願いしたい。

意見7：高等部3年生の入学当初は休校で始まり不安であったが、「今できることをやりましょう」と学校から提案され、少しずつ動いてきたことが良かった。最近では新型コロナウイルスの感染状況が収まってきたため、様々な交流ができるとよい。地域の方には、継続して交流を続けていただけてありがたかった。学校の創立10周年記念事業では、みんなが笑顔で集まるとよい。

(5) その他

- ・議事録の後日送付と確認を依頼。
- ・令和5年度委員の依頼。

6 会議のまとめ

- ・第3回学校運営協議会において、本校の来年度の取組について承認が得られた。
- ・高等部作業学習製品について承認が得られた。
- ・来年度も児童生徒の学びやすい環境づくりについて進めていく。